

子どもの頃、夢中になって遊んだ「鬼ごっこ」は、改めて考えてみると不思議な遊びであった。じゃんけんで「鬼」が決まると、あとは、追いつ、追われつひたすらなる疾走。そして、不運な誰かが掴まると、新しい「鬼」が誕生して役割が逆転し、再び、追いつ、追われつがくり返される。たったそれだけの単純な遊びながら、何故か無性に楽しくて時の経つのを忘れた。

さて、この遊びの不思議さの第一。それは、遊びの空間が自ずからある範囲に限定されていたことだ。しかも、どこからどこまでと相談したり、明瞭に区切ったりするわけでもないのに、何となく、皆がそれを納得し、了解し合っていた。たとえば、裏の空地が選ばれたとして、その向こうの住宅地までは駆け抜けなかったし、神社の境内では、何故か鳥居の外へは出ずに、内側だけを駆け廻った。

そして、不思議さの第二。子どもたちは、みんな、息を切らし、精一杯に走り廻るにもかかわらず、いつか、誰かが、ちゃんと掴まるような仕組みになっていた。仮りに、足のおそい子が「鬼」になっても、永遠に「鬼」であり続けることは稀であった。それも、格別、「手加減」とか「哀れみ」などというこざかしいことではなく、極く自然の成り行きとして、誰かが掴まり、「鬼」は交替した。

これは、遊ぶ子どもたち相互に通い合う絶妙の呼吸、まさに「啐啄同時」とでもいうべき、心の通い合いであったろう。ルールとか、約束などという硬質のものではなく、すべて、「遊ぶ身体」が、楽しく遊び続けるための、相互主体的な関係の発現である。私たちは、「教育」という名の下に、こうしたありようを寸断しているのではないだろうか。いまだ一度、このことに対して、敏くありたいと思う。

(H)

## 幼児の教育 第八十三巻 第四号

四月号 ◎

定価三〇〇円

昭和五十九年 三月二十五日 印刷  
昭和五十九年 四月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子  
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

●本紙御購読についての御注文は発売所  
所フレイベル館にお願いいたします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。